



各務小5・6年生が合唱曲「一つの明かりで」「気球に乗ってどこまでも」を披露



茂益亭蝶代さんの「笑いヨガ」。アハハウフフのパフォーマンスで会場が一つに



ギターマンドリンアンサンブル・ピアチェボレの演奏。スクリーンの画面も美しく



鵜沼中吹奏楽部が今回も迫力の演奏を披露。メンバーの中には各務小出身者も

「第六回 村国の郷ふれあいの集い」  
 十月二日(土)、各務小学校体育館で「第六回村国の郷ふれあいの集い」が開催されました。小学校の全児童も参加して、来場した地域の皆さんと一緒に次々と繰り広げられる演目を楽しみました。

地区社協  
だより

# 村国の郷

第50号  
 編集・発行  
 各務地区社会福祉協議会

社協会費が  
使われています



浅野市長の挨拶

演目の最後は歌と踊りで、新曲「村国の郷」の披露や各務にゆかりの音頭「おがせ音頭」「須恵器音頭」の踊りが踊られました。(次ページに掲載)  
 行事の様子は新聞報道されたほか、CCネットでも二月二十七日から三週間、毎日放映されました。

## 地域ふれあい広場

地域の交流を図ろうと何年も前から続く恒例の行事で、年間に10回開催されています。今年度のメニューは、男依健康体操、紙芝居「村国男依と壬申の乱」、折り紙でカラフルなコマ作り、ビンゴゲームなどです。小さいお子さんからお年寄りまで幅広い年代の人が一緒になって楽しんでいただいています。近くの公民館で開催されるときにはぜひ参加してください。



## 新曲「村国の郷」が完成



「村国の郷」という曲が完成し、第6回村国の郷ふれあいの集いで初披露されました。村国神社、おがせ池、天狗谷の3つの名所旧跡が盛り込まれており、「歴史で広がる郷土の福祉」の3つのテーマ（村国男依、おがせ池伝説、須恵器）とも重なっています。故郷を愛する心がにじみ出て郷愁を誘います。

作詞作曲は各務幸作さん、歌は外山貴一さん。「須恵器音頭」「おがせ音頭」に続いて、同じコンビで作られました。ユーチューブにもアップされています。

## 各務にゆかりの三音頭を踊る

「男依音頭」「おがせ音頭」「須恵器音頭」の三音頭で今年も盛り上がりました。



村国の郷ふれあいの集いで踊りを楽しむ皆さん

おがせ池夏祭りで熱唱する外山貴一さん。

# 講演会・研修会の開催



- ★近隣ケア研修会 31.04.27  
近隣ケア活動の進め方や包括支援センターの役割
- ★第1回福祉講演会 01.06.15  
成年後見制度について、成年後見支援センター所長の講演 他
- ★第2回福祉講演会 01.10.19  
当会の五島副会長がフレイルの予防について講演(写真) 他
- ★第3回福祉講演会 02.01.18  
各務小の石田校長から学校と地域の繋がりの大切さを 他



80歳以上の方々 580人を、民生委員児童委員や近隣ケアが訪問し、ご機嫌を伺うなどしてささやかな記念品をお渡ししました。例年、9月の敬老の日に合わせていましたが、今年度は11月に実施しました。



## 「表彰」



- ★第69回岐阜県社会福祉大会01.10.30において  
県社協会長表彰  
民生委員児童委員功労 白木 充さん
- ★第53回各務原市社会福祉大会01.11.20(写真)  
において市社協会長表彰  
地域福祉功労 鈴木由里子さん  
ボランティア功労 各務原お手玉の会  
(山の前町)  
民生委員児童委員功労 早川 富保さん  
民生委員児童委員功労 佐藤 美法さん

各務の歴史 連載⑥

「村国連氏の氏族的性格(二)」

文：上村 南耀

壬申の乱では淡海大津宮の正面を突く主力部隊・近江路方面軍の將軍は、筆頭に舍人の男依が任命されました。男依は西美濃や東近江出身の臣や首の姓を持つ地方豪族の將軍たちと共に進軍しました。連戦連勝の成果を収めた村国男依は先祖以来の軍事指揮に覚えのある素養を引継いだ地方豪族の出身であった、と見なすことができます。

各務郡の近くには皇室の直轄地・屯倉やそれを管理する行政区の縣とらしい場所が知られます。厚見郡三家郷(岐南町三宅)や加茂郡の縣神社(美濃加茂市加茂川町)がそれです。いずれも各務郡に隣接した地域です。木曾川を挟んだ対岸(左岸)には村国郷とよく似た地名の村久野(江南市)や村雲(宮市観音寺町)があります。これらの地はいずれも木曾川中流域にあたります。現代でも愛知県や岐阜県には村雲姓が六百人程度知られます。古代の美濃国武藝郡には刀剣を腰に帯びる意味を持つ御佩郷がありました。七宗町神淵には御佩山や十郷惣社の御佩神社もあります。神淵は鎌倉前期に神淵、麻生、村君、津保の四邑に分かれていた

伝承が知られます。飛騨川の支流白川沿いには神淵と直線距離にして二十km前後へだつた所に神土・越原地区があり村雲姓が集中しています。いずれも木曾川水系の流域です。

「村雲は中国の『宋史』に見られる東大寺の僧裔然が伝えた日本国『年代記』の第二代天村雲尊と名称が似ています。また三種の神器の一つ・天叢雲剣(別名、草薙剣)が想起される名称でもあります。この年代記は初代が天御中至尊で第二十四代が神武天皇とされる日本国の皇祖系譜です。『古事記』や『日本書紀』に比べると、やや水増し感の内容ですが、大同四(809)年二月五日、平城天皇の勅を受けて再編された系譜です。濃尾平野の村久野・村雲の地名あるいは村国・村雲の氏族名は、かなり古い段階から皇室に付属していた武人系氏族の居住の可能性を暗示するものです。

大牧二号墳やみな塚古墳と同類の性格の古墳である、名古屋市の高蔵二号墳(熱田区)に隣接する昭和区村雲町には、「むらぐもの長者」が居住した「むらぐもの里」の伝承もあります。木曾川流域と伊勢湾岸の熱田台地との物流や人、古墳文化のつながりが想定されます。村雲氏と村国氏の確かな関係は不明ですが、本貫地はいずれも木曾川水系の美濃・尾張両国にまたがる流動的な地域であったと考えられます。村国男依は、古くより大王家

に臣従し、木曾川流域で屯倉の経営や縣の支配にかかわるような立場の、既に連姓を与えられた渡来人あるいは渡来系文化を持つ武人の末裔であったことが想定可能です。

- 六国史に登場する村国氏の名前から男依の嫡流子孫の系図案を試作し、次に表示してみました。
- 一 男依(外小紫位(大宝令の従三位相当))
  - 二 志我(志賀)麻呂(従五位上)
  - 三 ①虫(武志)麻呂(従五位下)、②子老(従五位下)③嶋主(被誅殺後、復権。一階級上げて贈位。従五位下)
  - 四 息継(従五位下)

漢数字は男依からの世代数を示し、位階は最終官位です。○内の数字は兄弟関係を表し、①は嫡子で、②と③が庶子です。村国連息継以降の動向は調査していません。郡司など地方役人の人事については、ほとんどの場合『続日本紀』や『日本後紀』の記録に出ることがなく調査が難しいからです。

孫世代にあたる第三世代に嫡子以外の兄弟が複数登用されているのは、村国氏の嫡流が藤原仲麻呂(惠美押勝)の家令(家務総括者)として人事面で優遇された時期があったからです。後に村国氏は藤原仲麻呂の乱(764年)に連座して没落しました。現在、村国姓を名乗る人は全国で八十人程知られています。